

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

難易度は昨年に比べてかなり難しくなった。

問題の内容も典型的なものもあるが目新しいものもあり、受験生にとっては解きにくかったのではないだろうか。典型問題をいかに失点しないかが重要である。

〈特記事項・トピックス〉

本格的な論証問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

難易度・分量ともに重量化された結果、平均点は確実に下がると予想される。来年度も同程度の難易度になるだろう。対策としては、標準問題を確実に解けるようにすること、ミスをせず最後の答えまでたどりつけることが重要になってくるであろう。

確かな基礎力と計算力を養うことこそが合格への近道であると言っても過言ではないだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[1]	記述	II	微分積分	(1) 増減を調べるだけである。 (2) 図形を分割して積分すればよい。	やや易
[2]	記述	C	ベクトル, 空間座標	(1) 内積の条件から立式すればよい。 (2) (1)の結果を利用すればよい。 (3) (2)の結果を利用すればよい。	標準
[3]	記述	I, B	数と式, 数列	(1) 背理法で示すだけである。 (2) 具体的な n の値で実験すると推定は容易にできる。 同値性についてはいろいろな示し方がある。	やや難
[4]	記述	A	確率	(1), (2)は簡単である。 (3) (2)を利用し, 漸化式を立てるだけである。 (4) 漸化式を解けばよい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。